

徳田の歴史-14 紙芝居屋さん

1/2

昭和20年代初期(約 70 年前)、拍子木をチョンチョンと叩く紙芝居屋のおじさんが頑丈な古びた自転車に乗り荷台に道具を積み徳田地区にやって来た時期があった。場所は現在の徳田バス停留所付近の民家の庭先や現集会所(弘法さん)近辺の空き地である。



当時の紙芝居さんの
イメージ写真
(絵は地獄編)

●当時の紙芝居の内容はどんなものだったのですか

記録はないのではっきりしませんが、日本昔話的なもの、マンガ、時代劇、戦記物でした。(かちかち山、鞍馬天狗、等の物語もあったようです)

演じられていた紙芝居は一回、2~3本位でした。

紙芝居屋さんが木枠のフレームに絵をセットし準備が終わると、ちらほら集まって来る子供達に飴とか、せんべいを売るのである。お菓子類の値段は余りはっきりした記憶はありませんが当時子供達は十分なお金を持っていなかったのが買う子供は少なかったようでした。又かなりの子供達が集まり楽しんで見物していたようです。

※参考ですがこの時期、一般的な紙芝居の料金は5円で飴玉は1個1円位でした。

●紙芝居屋さんが徳田に来る頻度は少なかったが、昭和 25 年頃になるといつの間にか全く来なくなりました。

全国的には紙芝居は昭和 6 年頃から始まり昭和 13 年頃が最盛期だったようです。又昭和 25 年頃には全国でかなりたくさん紙芝居屋さんがいたそうです。

その後、昭和 30 年代の白黒テレビの急速な普及と共にゲームでも楽しめるようになり昭和 30 年代後半頃には全国的にも紙芝居屋さんは徐々に消えていきました。しかし一旦は消えてしまいましたが最近になって幼児教育の一環としての紙芝居は徐々に復活し、引き継がれているようです。

<サンプル>



このような紙芝居も幼児用として
見つけました。いろいろたくさんの
種類があります。今は主に学校、
図書館等で演じられているようです。

※年配の方々の話を参考にしています。

2017 H.A